

**お互いの命をまもり合おう**

本単元で育成する資質・能力

チャレンジする力

表現する力

協力・貢献する力

- 1 日時 令和5年9月20日（水）5校時
- 2 学年 3年2組38名（男子21名、女子17名）
- 3 単元名 お互いの命をまもり合おう

## 4 単元について

## (1) 単元観

本単元は、「自分たちが生活している坂地域の課題の解決に向け、地域の方と連携しながら活動することを通して、地域の一員としての自覚や誇りを持ち、自らの生き方について考え、行動しようとする。」ことを目標に設定している。

本校は、総合的な学習の時間で第1学年から系統的に地域学習に取り組んでおり、平成27年度からは第3学年で「防災」をテーマに学びを深めている。そのような中、平成30年7月の西日本豪雨により被災し、本町では災害関連死を含め20名の方が犠牲となった。小学校4年生の時に身をもって経験した豪雨災害は、生徒にとって身近で必然性のある課題であり、防災・減災について考える本単元は、自らが問いをもち課題の解決に向けて主体的に活動することのできる単元となっている。

また、探究のプロセスを学ぶとともに、友だちと協力して課題を解決する力や、自己の生き方を考え、積極的に社会に参画しようとする態度を養う上で、本単元は大変重要であると考えている。

## (2) 生徒観

本学級の生徒は、総合的な学習の時間に限らず、どの授業も集中して前向きに参加している。特にグループ活動の際には、自分の意見をしっかりと持ち、班員に伝えようとしている姿が見られ、積極的に意見を交流し合える生徒が多い。また、クラス全体として、どんな意見も言いやすい雰囲気があるため、のびのびと学習できている。

これまで、総合的な学習の時間では、ICTを活用しながら必要となる情報を集めたり、プレゼンテーションソフトや新聞を使って調べたことや学んだことを発表したりする活動を充実させてきた。しかし、コロナ禍以前に比べて地域に出て学びを深めたり、地域を巻き込んで探究の活動を進めたりすることが少なくなっている。

本単元が始まる前に、本校の3学年に実施した「課題発見・解決学習」に関わるアンケート結果は、次のようになっている。

質問項目	肯定的に回答した生徒の割合
授業では、課題を解決するために、進んで資料を集めたり取材をしたりしています。	37.2%
授業では、友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。	91.8%
授業では、調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。	34.5%
授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」「やってみたい」と思っ て取り組んでいます。	70.9%
学習の振り返りをする時には、「もっと考えてみたいこと」「もっと調べてみたい こと」「もっと工夫してみたいこと」などを考えています。	60.9%

このことから、友だちと話し合うなどして、協力しながら学習を進めていくことの有用性についてはよく理解し、実行できていると分析できる。しかし、それらを探究的な活動とつなげていくことや、課題解決のための情報収集になっていないということに課題があると考えられる。

### (3) 指導観

本単元では、主体的な学びの質をより高め、生徒一人一人が思考し続けることのできる授業とするべく、PBL（プロジェクト型学習）を実践する。単元のゴールイメージを「中学生の私たちがふるさと坂のためにできることは何か考え、行動・発信することができる」とし、解が1つでない課題を扱い、発展性のあるプロジェクトとなるようにする。プロジェクトの達成に向け、各探究活動が連鎖しながらより深い学びにつながるように、探究活動Ⅰ・Ⅱをスパイラルに設定した。探究活動Ⅰでは、防災・減災についての理解を深めるとともに、追悼集会の運営、全校生徒に向けた「ひろしまマイ・タイムライン」についての発表を行うことを通して、自己の見方や考え方の深まりを自覚させ、新たな課題意識をもたせるようにする。そして、探究活動Ⅱでは、「中学生の私たちだから」という視点をもって、これまでの学びをもとに、ふるさと坂のためにできることを考え、その実現のために外部に発信する活動を仕組む。

学習全体を通して、グループ学習を充実させ、他の生徒の意見に触れることで、より多面的・多角的に物事を考えられる力を身に付けさせたい。また、調査活動では、一人一台のICT機器を活用して調べ、まとめる活動を確保するとともに、坂町環境防災課や地域包括支援センター、自衛隊などの立場の違う外部講師を招聘する。さらに、ワークシートを工夫し、調べたことなどを表や図などを用いてまとめさせる。探求の過程を繰り返すことで、生徒が自分の大切な人のため、また、地域のために役立つことを考え行動できるようにしていきたい。生徒の主体的な学びとなるよう、生徒にとって必然性がある課題とすること、できるだけ生徒に意思決定させること等を重視した学習展開とする。

## 5 単元の目標

自分たちが生活している坂地域の課題の解決に向け、地域の方と連携しながら外部に発信する活動を通して、災害に強いまちづくりに必要なことを理解し、ふるさと坂のために自分たちができることを考え、坂町の防災が抱える課題の解決のために自分たちで取り組もうとする。

## 6 育成しようとする資質・能力と本単元とのかかわり

本校で育成する資質・能力	本単元で目指す生徒の姿
チャレンジする力 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">チャレンジ</span> （挑戦）（粘り強さ）（解決力）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと坂について自分たちが知っていることや経験したこと、新たに学習したこととのズレを通して、自らが解決したい課題をもち、解決に向けて果敢に挑戦している。</li> <li>・課題解決に向け主体的に取り組む中、試行錯誤しながら諦めず取り組んでいる。</li> </ul>
表現する力 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">表現</span> （自分の考え）（目的・相手・場面）（工夫）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと坂の防災について自分で考えたこと、グループで考えたことを、目的や相手、場面に応じて、内容や方法、表現の仕方などを工夫しながら伝えることができる。</li> <li>・ICTの価値に気付き、ICTを効果的に活用して、自分たちの考えや思いを表現することができる。</li> </ul>
協力・貢献する力 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">協力・貢献</span> （役割）（行動力）（感謝）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や家庭、地域の中での役割を自覚し、皆と協力して、ふるさと坂の課題を解決するために行動している。</li> </ul>

	<p>・ふるさと坂の防災のために、地域の一員として、また中学生として、どのようなことができるのかを考え、行動している。</p>
--	---

7 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<p>①災害に強いまちづくりを実現していくためには、そこに存在する多様な問題の解決に向けて人や組織と目的を共有して取り組むことが必要であることを理解している。</p> <p>②ICT機器を効果的に活用し、防災に関する必要な情報を短い時間にたくさん収集している。</p> <p>③坂町の防災に関する状況と自分たちの生活との関りを理解し、地域のために行動しようとしていることは、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。</p>	<p>①既習知識と新たな学びの中からズレを感じ、坂町の防災における問題を明らかにし、解決への見通しをもって計画している。</p> <p>②災害に強いまちづくりの実現に向けて、必要となる情報を多様な方法の中から効果的に選択している。</p> <p>③収集した情報や体験した情報をもとに、災害に強いまちづくりに向けて自分たちができることを整理しながら解決に向けて考えている。</p> <p>④発表やプレゼンテーションの際、目的や相手、場面に応じて、内容や方法、表現の仕方などを工夫しながら伝えている。</p>	<p>①学びと自分の生活を関連付けて、自分の意思で探究的な活動に取り組もうとしている。</p> <p>②課題解決に向け主体的に取り組む中、試行錯誤しながら諦めず取り組もうとしている。</p> <p>③学校や家庭、地域の中での役割を自覚し、皆と協力して、ふるさと坂の課題を解決するために考え、行動しようとしている。</p>

8 指導と評価の計画 (30時間 本時 20/30時間)

探究の過程	時間	主な学習内容	知	思	態	評価方法
探究活動 I 課題設定 情報収集 整理・分析 まとめ・創造・表現	12	<p>○坂町のよいところ、課題について付箋に書いてグループで共有する。</p> <p>○坂町の令和5年度の会計歳出予算の割り振りを予想し、気づいたことを交流し、坂町の防災・減災について自分事として考える。</p> <p>○防災学習プリントを使って、防災に関する基本的な知識を得る。</p> <p>○「ひろしまマイ・タイムライン」を作成する。</p> <p>○自衛隊の出前授業で、講話や共助器具の試作等の体験を行い、学びを深める。</p> <p>○全校生徒へ伝えたい「ひろしまマイ・タイムライン」の作成方法や作成の際のポイントをまとめ、発表する。</p> <p>○探究活動 I を振り返り、防災学習での学びを外部に発信する方法や手段について考える。</p>			②	<p>① 授業観察 ジャムボード 授業観察 ワークシート</p> <p>学習プリント</p> <p>授業観察</p> <p>授業観察 ワークシート</p> <p>授業観察 生徒作品</p> <p>振り返り</p>

探究活動Ⅱ 課題設定 情報収集 整理・分析 まとめ・創造・表現	18	○坂町環境防災課の方から坂町の取組、防災において大切なことについて知り、中学生の私たちだからできることについて考える。		①	授業観察 ジャムボード	
		○防災・減災に関わる坂町の取組や現状について理解を深める。				
		○情報収集をもとに、テーマを決め、これまでの学びを外部に発信する方法を考える。 (誰に対して、どこで、どんな方法で 等) (例) ・災害伝承センターに展示する「早目の避難を呼びかけるポスター」を作成する。 ・防災グッズに関するパンフレットを作り、役場に置いてもらう。	②	③	②	授業観察 企画書
		○構想案をゲストティーチャーに発表、意見交換を行う。				
		○ <u>ゲストティーチャーの話をもとに構想案を再考する。(本時)</u>			③	構想シート ふりかえり
○構想案をもとに、資料や動画を作成し、外部に発信する。			④	生徒作品		
○本単元を貫くテーマ「ふるさと坂のために、中学生の私たちができること」に対する自分の考えや思いを書く。		③		③	振り返り ワークシート	

### 9 ルーブリック (評価基準) 【本時】

評価基準	
Ⅲ	自分たちが考えた外部への発信方法について、ゲストティーチャーの話と比較したり、関連付けたりして、その方法の良さを明確にして、構想案を再考することができる。
Ⅱ	自分たちが考えた外部への発信方法について、ゲストティーチャーの話と比較したり、関連付けたりして、構想案を再考することができる。
Ⅰ	ゲストティーチャーの話をもとに、構想案を再考することができる。

10 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・ゲストティーチャーの話をもとに、地域の防災の視点から、自分たちが考えた構想案を再考することができる。

(2) 本時の展開 (本時 20/30)

	学習活動	指導上の留意事項	資質・能力 (評価方法)						
導入	1 本時のめあてと、授業の流れを確認する。(2分)								
	めあて：ゲストティーチャーの話をもとに、構想案を再考することができる								
展開	2 前時のゲストティーチャーの話をうけて、各班で構想案を再考する。(10分) (例)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自で考えてきた案をもちより、拡大印刷した構想シートに、構想案を再考し、修正・追加した内容を色マジックで書き加える。</li> </ul>							
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>目標 日本は災害の多い国なので、いざ災害が起こった時に、避難所にもっていける「持ち出し用防災グッズ」と、ライフラインが止まった時の「自宅避難用の防災グッズ」を家に準備できるようにする。</p> <p>外部への発信【具体化】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">誰に</td> <td>地域の方々 お年寄りの方々</td> </tr> <tr> <td>何を</td> <td>防災グッズを準備することの重要性</td> </tr> <tr> <td>どのように</td> <td>防災グッズの必要性を紹介する動画を作成し、お年寄りが集まる集会で、その動画を見てもらう。</td> </tr> </table> <p>現状 防災グッズ(防災バック)を準備している家庭が少ない。西日本豪雨のとき、断水になって大変だった。</p> </div>			誰に	地域の方々 お年寄りの方々	何を	防災グッズを準備することの重要性	どのように	防災グッズの必要性を紹介する動画を作成し、お年寄りが集まる集会で、その動画を見てもらう。
誰に	地域の方々 お年寄りの方々								
何を	防災グッズを準備することの重要性								
どのように	防災グッズの必要性を紹介する動画を作成し、お年寄りが集まる集会で、その動画を見てもらう。								
	3 色マジックで追加・修正を書き加えた構想シートを全体で発表する。(15分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲストティーチャーに机間巡視をしてもらい、生徒の質問に答えてもらったり、アドバイスをしてもらったりする。</li> <li>・修正を加えた構想シートを使って構想案の説明を行う。追加・修正したところが明確になるように発表させる。</li> <li>・各班の発表は2分以内とする。</li> <li>・他の班の発表を聞く際、「なるほど、いいな」と思ったことを付箋に書かせる。</li> </ul>	○収集した情報や体験した情報をもとに、災害に強いまちづくりに向けて自分たちができることを整理しながら解決に向けて考えている。(構想シート)						
	4 付箋を交流する。(8分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分以外の6つの班のうち、2つの班に対して書かせる。</li> <li>・拡大単元構想シートに、書いた付箋を貼りに行く。</li> </ul>							
	5 ゲストティーチャーからの講評を聞く。(10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書かれた付箋を確認する。</li> <li>・アドバイスを踏まえて改善できている部分を評価・価値づけをする。</li> </ul>							

ま と め	6 振り返り・まとめを行う。 (5分)	・班で取り組んだ構想案の整理・分析について、自分の言葉でワークシートにまとめさせる。	○収集した情報や体験した情報をもとに、災害に強いまちづくりに向けて自分たちができることを整理しながら解決に向けて考えている。(ワークシートへの記述)
-------------	------------------------	--	--

## 11 準備物

ワークシート、模造紙（めあて・学習のながれ）、拡大印刷した構想シート、色マジック


## 12 実践記録

### (1) 前時の授業について

前時の授業で、今まで考えてきた構想案をゲストティーチャー3名に発表し、アドバイスを基に改善案を考える活動を行った。

まず、生徒は google スライドを使って、今までの学びを外部に発信することを目的とした構想案の発表を行った。構想シートを基に、現状の分析、目標、誰に、何を、どのような方法で発信するのかについて、具体的な内容も含めて発表した。その後、3名のゲストティーチャーから全体に向けてのアドバイスをしていただき、それらを踏まえて、拡大した構想シートにマジックで加筆・修正をしながら、自分たちの構想案を練り直した。生徒が再考している間も、ゲストティーチャーには机間指導をしていただき、適宜生徒の質問に答えたり、新たなアドバイスをしたりしていただいた。次時では、再考の続きと、修正案の発表を行うことを伝え、前時の授業は終了した。

### (2) 研究授業（本時）について

	学習活動	授業や生徒の様子
	1 本時のめあてと、授業の流れを確認する。	・本時のめあて、授業の流れを確認した後、すぐに次の活動に入った。生徒は今日行う活動を理解していたため、スムーズに次の活動に移ることができた。
	2 前時のゲストティーチャーの話を受けて、各班で構想案を再考する。	<p>・前時の続きとして、構想案の見直しの続きを行った。再度ゲストティーチャーが班の話し合いに入って、質問やアドバイスを言い、班での話し合いを深めることができた。</p> <p>【A班での話し合い】</p> <p>A班では、「防災バッグを準備している家庭が少ない」という課題を受けて、目標を「防災意識を高める」と設定し、構想案を作成していた。以下にそれについてのゲストティーチャーとのやり取りを示す。</p>  <p>G T 1 : 課題と目標がつながっていないと、せっかくアンケートから課題を明らかにしているのに、その解決になっていないと思うよ。防災意識を高めるということだけでは、具体的に何に取り組みたいのかははっきりしないんじゃないかな。</p> <p>生 徒 : 「防災バッグを準備している家庭が少ない」という課題から考えると、防災バッグに焦点を当てた目標にした方がいいね。</p>

生徒：じゃあ、「防災バッグを持つ家庭を増やす」に変えようよ。  
GT1：避難所に避難している人の困り感や困っている内容を整理することで、防災バッグの必要性が明らかになると思います。「避難所で困ること」という視点で、防災バッグについて考えたらどうかな。

このやりとりの後、インターネットを活用したり、自身の体験を想起したりして、外部に発信する「何を」について、新たな視点を持ち、考えが広がっていった。



続けて、もう一人のゲストティーチャーからポスターの設置場所についてアドバイスを受けた。

GT2：ポスターをどこに貼ろうとしているのかな。

生徒：たくさんの人に見てもらえる場所はどこだろう。

GT2：足を止めるところに貼ると見てもらえると思うよ。

生徒：小学校や中学校のトイレの壁にポスターを貼ったらみてもらえるかもしれない。

GT2からの質問により、設置場所についての新たな考えが生まれていた。

3 色マジックで追加・修正を書き加えた構想シートを全体で発表する。

・構想案の再考で、見直したり具体化したりした内容をマジックで書き込んだ構想シートを使って、全体に発表した。  
・他の班の発表を聞く際には、プリントに「なるほど」「いいな」と思ったところについて、メモを取らせた。



4 付箋を交流する。

・全ての班の発表後、一人2枚ずつ付箋に、「なるほど」「いいな」と思ったことを書かせた。そしてそれを、各班の机にある構想シートに貼り付けさせ、相互評価を行った。生徒たちは、自分たちの班に届いた付箋を見ながら、嬉しそうな表情を浮かべるとともに、その付箋から新たな改善点を見いだしている班もあった。



5 ゲストティーチャーからの講評を聞く。


・各ゲストティーチャーからの講評内容

**GT1**

○アンケートやインターネットの情報から、現状や課題を分析し、それと合うように目標を設定していて良かった。

○本当にこの取組がどうだったのかをはかるために、取組後に検証を取り入れるととっても良いと思う。



		<p><b>GT2</b></p> <p>○地域の人と日頃からコミュニケーションをとるということも大切なことである。生徒が地域の方と顔見知りになり、いざというときに声をかけることのできる関係を築いていくことも、外部への発信になる。</p> <p>○救助に来る人にも家族がいるということを忘れないでほしい。いざという時に避難ができるように生徒自身にもなってほしい。</p> <p><b>GT3</b></p> <p>○中学生には特別な力があると思う。大人が言っても動かない人も地域の中学生が言えば、動くこともあると思う。誰が言うかということが重要だと感じた。守られる側から守る側になってほしい。</p> <p>○発信の対象を絞った時には、その内容も絞られる。部分的にはそれが最適だとしても、ではそれに漏れた人はどうなるのか。見過ごしているのか。そういうことも考えてみてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒はゲストティーチャーの話をしっかり聞いていたが、メモを取っている生徒が数名であった。事前にメモをとるように生徒へ指示をしておくべきだった。</li> </ul> 
6 振り返り・まとめ		<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の振り返りを一部抜粋</li> </ul> <div data-bbox="533 954 1410 1196" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>防災意識を高めるという抽象的な目標から、いざという時のため、小中学生が備えられるようにするという具体的な目標にすることができた。ゲストティーチャーの方の話を受けて、目標を具体的にすると、内容も具体的になっていき、構想案を深めることができた。</p> </div> <div data-bbox="533 1218 1410 1330" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>防災について改めて考えられた。班の人たちと協力しながら、構想案を更に深め、坂町の今後についても話せた。</p> </div> <div data-bbox="533 1352 1410 1608" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ゲストティーチャーの方は、「テレビなんて無理」などと言わず、自分たちの目標を踏まえた上で、実現できるように一生懸命考えてくださり嬉しかったです。クラスの人が付箋に「どのように」を変えたから「誰に」も変えていて良かったと書いてくれていて、気づいてほしいところだったのですごいなと思いました。</p> </div>